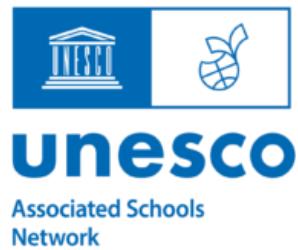


# TOMIYA UNESCO NEWS LETTER

令和7年度 第2号 ユネスコ企画部発行 2025年9月



# 令和7年度 T-time 2学年 課題研究

「T-time」とは、富谷高校が独自に行う課題探求型の学習活動です。2年生の課題研究が本格的にスタートしました。それに伴い、様々な外部講師を招いて学ぶ機会を設けています。

## 富谷市講演会～「住みたくなるまち 日本一を目指して」～

7月1日、「総合的な探究の時間(T-time)」の一環として、富谷市長・若生裕俊氏による特別講話が行われました。テーマは「住みたくなるまち日本一を目指して」。市長自らの歩みと、富谷市のまちづくりのビジョンを学ぶ貴重な機会となりました。

富谷市は、1620 年に宿場町として開宿して以来、合併をせずに独自の発展を遂げてきた自治体です。市制施行からわずか数年で、住みよさランキングや幸福度ランキングで東北 1 位を獲得するなど、全国的にも注目を集めています。講話では、ブルーベリーやはちみつ、富谷茶といった特産品の開発、起業支援拠点「TOMI+」や「富谷塾」の取り組み、さらには子育て支援や教育環境の充実など、幅広い施策が紹介されました。特に「100 年間ひとが増え続けるまち」という将来ビジョンには、生徒たちも大きな関心を寄せていました。

生徒たちからは「市長の話を聞いて、地域に対する見方が変わった」「自分も地域の一員として何かできることを考えたい」といった感想が多く寄せられ、まちづくりへの関心が高まるきっかけとなったようです。

未来を担う高校生たちにとって、今回の講話は「まち」と「自分」のつながりを見つめ直す貴重な時間となりました。



## 課題研究の進め方や地域課題解決に向けた研究の紹介

7月3日(木)、「総合的な探究の時間(T-time)」において、2学年を対象に、宮城大学の宮崎義久先生をお招きして、講演会を行いました。この講演会は、課題研究を始めるにあたり、「研究」についての基本講演を行って生徒の理解を深めること、高校生の普段の学習や勉強とは異なる次元にある「研究」の意味や方法を知ること、「地域についての課題研究」に必要な学問的素養を高めることを目的として行いました。2時間で行いましたが、後半は、宮城大学の学生3名(高橋さん、秋保さん、菅原さん)による、実践事例も紹介しました。

講演を聴いた生徒からは、「より良い課題設定をするためには問題と課題をうまく区別することが大切だと分かった。問題の本質を捉えることで、解決するべき課題を明確にし、課題設定における『根本』というものに気付くことができると学んだ」や、「3種類の『地域を見る目』を今後の課題研究に活かしたい」、「宮城大学の学生の方の話がとても印象に残った。沢山の経験を積んでいくことが大切だと改めて実感した。発表をするときは失敗を恐れずに、課題研究に全力で励みたいと思った」といった感想が多くあり、課題研究への前向きな姿勢が養われました。



## “届けよう、服のチカラ”プロジェクト in 樹咲祭

9月6日(土)樹咲祭の一般公開が行われ、多くの方に富谷高校の文化祭をご覧いただきました。

樹咲祭では、ユネスコ委員が「“届けよう、服のチカラ”プロジェクト」の一環として、子ども服の寄付を募りました。「“届けよう、服のチカラ”プロジェクトは、ファーストリテイリングがUNHCR(国連難民高等弁務官事務所)と連携して行う、小、中学生と高校生を対象とした参加型の学習プログラムです。難民の子どもたちへの支援として、着なくなった子ども服を回収し届けることで、SDGs12「つかう責任・つくる責任」に貢献することを目指しています。本校はユネスコスクールとして、このプロジェクトに毎年参加しています。ユニクロ・GUさんの協力のもとユネスコ委員が中心となり、樹咲祭では多くの方から子ども服の寄付をいただきました。また、当日は成田中学校のみなさんからも子ども服の寄付をいただくことができました。今後は成田小学校、成田東小学校の協力も仰ぎ、さらに子ども服の回収を進める予定です。



寄付いただいた服は、このあと世界中の子どもたちのもとへ届けられます。ご協力いただいた皆様、本当にありがとうございました。引き続き、この取り組みにご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願いします。

